

令和4年度 第1回 静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日 時 令和4年7月21日(木)
午後1時30分から午後3時15分まで
- 2 場 所 静岡市立登呂博物館 1階 登呂交流ホール
- 3 出席者 (協議会委員)
堀切 正人 会長、渋江 かさね 委員、伊熊 修 委員、
木村 貴子 委員、木山 克彦 委員、鈴木 杏佳 委員、
野田 修 委員、弓削 幸恵 委員、藁科 彰良 委員
(全9名)
(事務局)
能口文化財課長
高田担当課長兼登呂博物館長、梶山副主幹、國島主任主事
朝賀主任主事、宮崎主事、渡邊主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事記録 1 文化財課長挨拶
2 協議会委員の交代について
3 議事
(1) 令和3年度の事業報告
(2) 令和4年度の事業予定について
(3) 議題「登呂遺跡周辺の地域住民に親しまれるための博物館運営の在り方」
- 6 議事内容
事務局 開会
能口文化財課長 開会にあたっての挨拶
事務局 資料確認・委員委嘱に係る連絡事項
各委員 自己紹介
堀切会長 議事録の公開の確認・署名者の選任
事務局 令和3年度の事業報告 説明
令和4年度の事業予定 説明

堀切会長

委員に対し、質疑があれば発言するよう依頼

(弓削委員)

登呂遺跡への来場者数が戻りつつあるということで、小中学生が全体の半分ぐらいということですが、この増えてきているのは、傾向として修学旅行などの他県から来ている学校が多いのか、または市内の社会科見学の学校が多いのかどうか。

(事務局)

昨年度は、感染状況の波もあったのですが、市内の6年生の社会科見学も戻りつつあるということと、山梨県、長野県の修学旅行生が中部横断自動車道の開通もあり、静岡県を利用する傾向があるようです。

(伊熊委員)

前回の協議会の検討議題で、コロナ禍における博物館運営のあり方について協議したと思いますが、今また再燃しつつありますので、前回の協議か内容を踏まえて対策や改善しているところがあれば報告をお願いします。

(事務局)

昨年度、この協議会でコロナ禍における博物館での事業について、募集人数の見直しやガイドラインに沿った対策をしていくべきであるなどのご意見をいただきましたが、現在博物館では、スタッフ会議やボランティア会議を月一回程度開催していますが、スタッフ間で現状を踏まえながら、どこまでのことができるのかなど適時検討をしています。さらにもう一つは、ガイドラインについては、本日資料の用意はございませんが、昨年度は蔓延防止措置などもありましたが段階に応じた対応表を博物館で作成し、体験展示などの提供や対応などを行っているところです。ただこの対応表についても、対応の改善ができるようであれば見直しを図るようにしているところです。

(伊熊委員)

またこのところ、コロナ感染が再燃しつつありますが、注意をしながらも外での体験事業など優位性のあるものはやっていってほしいと思います。

(事務局)

検討議題「登呂遺跡周辺の地域住民に親しまれるための博物館運営の在り方」について趣旨説明

(堀切会長)

登呂まつりは、市民に親しまれている大きなイベントではありますが、今年は先ほどの説明によると駿河区役所も加わってくれるとのことですが、トロベークとはどのようなものなのでしょうか。

(事務局)

トロベークは、昨年度より駿河区で計画しているイベントですが、基本的には、10月8日の登呂まつりの日から10月15日までの一週間の中で、駿河区役所や登呂遺跡のあたりを中心とするエリアで、周辺の企業、施設、団体等の事業所が集中的にイベントを行って、区全体に周遊性を持たせ、連携をいく事業です。その初日として10月8日の登呂まつりを重要な位置づけにしておきまして、さらに最終日の10月15日にもこの登呂遺跡公園においてスルガフェスを行い、「旬穫祭」として駿河区の地場産品などを一堂に会するイベントや、あとはこれにあわせて区内の事業所にワークショップなどの出店をしてもらうイベントになります。

(堀切会長)

区役所や色々な施設でイベントが行われるわけですが、例えばどのようなイベントが行われますか。

(事務局)

各事業所によりますが、例えば消防署であれば消火体験のイベントや、福祉施設であれば施設内でのおまつりなど施設・事業所の特色を出しながらイベントを行い、それを集中させるのがねらいとなっています。

(堀切会長)

登呂遺跡に関連するイベントが行われるわけではなく、それぞれの事業所の特色のイベントを集中的に行い、駿河区全体の交流人口を増やそうということで

いいですかね。

(事務局)

はいそうです。

(堀切会長)

それではみなさまのほうからの質問をお願いします。いかがでしょうか。

(藁科委員)

先ほどのトロベークウィークに関してお話しができましたが、学校で「〇〇ウィーク」と聞くのは給食ですね。「カンヌウィーク」とか静岡市内でイベントがやっていると、学校給食でこれにちなんだメニューが組まれたりします。なので、このトロベークウィークであれば、登呂遺跡に関連した赤米などを給食のメニューに入れてもらい、児童からその家庭へお知らせできるのではないのでしょうか。ただイベントをやるよりは、稲作など登呂遺跡にちなんだものが出来たらいいと思いました。

(堀切会長)

このトロベークウィーク中も、学校教育との連携が出来たら素晴らしいでしょうね。

(野田委員)

このトロベークウィークは、今年が一回目ですよ。私たち南部小も、駿河区の地域総務課からこのトロベークウィークに参加してくださいと言われて、会合にも出席しています。今回のトロベークウィークには、高松中学校、南部小学校、富士見小学校、森下小学校が駿河区役所に図工や美術の作品を展示するという形で参加します。ですので、登呂遺跡とは直接関係がない形で参加します。

以前の校長会で東京に行く機会がありました。その中で、各県の校長先生が代表で参加していたのですが、自己紹介のなかで、南部小学校の学区に登呂遺跡があると言ったらすぐ理解してもらいました。なので、子どもの頃教科書に登呂遺跡が載っていた 50 歳以上の年齢層には知名度はすごくあるのだなと思いました。今回の議題で、「登呂遺跡周辺の地域住民」とありますが、この定義がどうなのかなと、たぶんこのまわりの人だと思うのですが、具体的検討事項の一つ目の

「地域住民が望む登呂遺跡（公園）のあり方」と書いてありますが、登呂遺跡のイメージは公園ではなく史跡であり、公園のイメージはないですね。憩いの場であるのであれば、作りを変えていかななくてはならないと思います。高松中学校、南部小学校の生徒・児童で登呂遺跡の中を通ってくる子はいません。学校から登呂遺跡へのルートがわかりにくいですね。史跡としての制約のなかで、地域住民に親しまれる登呂遺跡のかたちを考えていかななくてはならないと思います。

（堀切会長）

「史跡」なのか「公園」なのか考えていかななくてはならないと思いますが、公園というと色々な公園の形があります。非常に重要な指摘ですが、事務局のほうから何かありますか。

（事務局）

地域住民については、徒歩圏内、自転車圏内を想定しています。野田委員ご指摘のとおり、この登呂遺跡では地域住民が憩えるベンチなどの設置は限られています。それでも最近、近隣のご夫婦がキッチンカーによる出店してくれていました。地域住民がピクニックシートなどをもって気軽に来てもらえるような場所になってほしいと取り組んでくれています。私たちもこのような取り組みに応えられるよう植栽により日陰を作ったり、ピクニックシートを貸し出したりするなど、出来るところからやっていきたいと考えております。

（堀切会長）

公園にするにしても、ここにはここ独自の公園のあり方があるのではないのでしょうか。

（鈴木委員）

今の20代はあまり登呂遺跡を知らないです。自分は静岡県立大学の卒業生ですが、県立大学の学生のおよそ半分は県外の出身です。このような大学生を登呂遺跡に引っ張ってくるきっかけが無いので、登呂まつりなどのイベントの際に大学のダンスサークルなどを呼ぶなどして、まずは登呂遺跡を知ってもらうことが必要であると思います。まず来てもらって、登呂遺跡の面白さや魅力を感じてくれる人がいるのではないかと思って、そのような人たちに来ってもらうきっかけが作ればいいのかと思います。

(堀切会長)

議題にある各ライフステージにあった利用のされ方とありますが、現在登呂遺跡の利用者の5割くらいが小中学生であり、それ以外の高校生、大学、社会人、高齢者にとってはどうなのか、例えば今の鈴木委員の意見にもあったように大学生向けのコンテンツがあるのかなど、各ライフステージにあったコンテンツが必要であり、それが何なのか考えていかなければならないのではないのでしょうか。

(木村委員)

ナイトミュージアムをやってみてはどうかと思っていたのですが、ナイトミュージアムは博物館では毎年やっているのでしょうか。

(事務局)

夜間開館については、令和2年度よりやっています。

(木村委員)

ナイトミュージアムは、昼間の登呂遺跡や登呂博物館とは違う雰囲気が楽しめ、とても興味をひくものであると思います。もっと積極的にナイトミュージアムに関するPRをして、日ごろあまり興味を持っていない人たちを引き付けるイベントとしてやっていってはどうでしょうか。また、登呂まつりのときは博物館として共催するようなことはあるのでしょうか。

(事務局)

登呂まつりの開催される10月8日・9日については、夜間に開館する予定は現在のところありません。登呂まつりは、地元町内会の実行委員が中心になっているため、できる限り協力して盛り上げたいとと考えていまして、この登呂まつりに合わせて行うイベントも計画しています。先ほど鈴木委員からもありましたが、今回、第60回の登呂まつりの実施に際しまして、町内の実行委員会さんが中心となり企画をしておりますが、駿河区を代表するおまつりへという目標もあり、今年度から地元大学生にも参加してもらうワークショップを予定しています。こうして若い人たちの意見も取り入れていける機会を作っていきたいと考えています。このワークショップは年2回予定してします。地元のお祭りを尊

重しながら進めていきたいと考えています。また、夜間開館も芹沢銈介美術館と連携してやっていきたいです。そしてこのなかで復元住居をライトアップするなど、若い人たちにも注目してもらえるような取り組みをしていきたいと考えております。

(木村委員)

登呂まつりは地元の人たちのお祭りですが、せっかくこの遺跡で行われるので、この博物館内も一緒にやれたらいいのではないかと思います。

(伊熊委員)

この登呂遺跡は、史跡公園としてどのように地域住民と関わっていくか考えなければならぬと思いますが、トロベークや登呂まつりなどを通して市民のシビックプライドを醸成する史跡公園になっているのかであるが、一つは、散策路がわかりにくく改善が必要だと思います。園内の道がわかりませんね。

また、登呂遺跡は、認知度はありますが、この史跡公園に誇りをもっているかどうかという点はまだ疑問があります。佐賀県の吉野ヶ里遺跡や青森県の三内丸山遺跡がありますが、登呂遺跡は立地的に恵まれているので、こうした利点を生かしながら市民にも親しまれる史跡公園の方向性をこの協議会で検討していくべきであると考えます。前年度の博物館協議会では、委員長から博物館長へ「登呂遺跡に対するシビックプライドの醸成」に関する提言がなされています。まずはこの答申に対する考え方と今回の検討課題の整理をしていくべきではないでしょうか。

(事務局)

シビックプライドの醸成に対する考え方として、これまでは市内全域の住民を対象とし登呂遺跡に愛着を持ってもらえる方策を考えてきましたが、今回はより対象を狭め地域住民に焦点を絞って検討していただきたいと考えております。

(伊熊委員)

今回の議題の提案書のなかに、近隣住民にイベントのことがあまりよく知られていないとありますが、博物館ではポスターやチラシなど様々な広報をしているので、登呂まつりやトロベークも効果的な広報ができるのではないで

しょうか。ぜひ森下学区にも広報してほしいと思います。またこのイベントの中では、登呂遺跡の特性を生かした参画の仕方が求められるのではないのでしょうか。この点では、登呂まつりと今回の企画展の「祀りとまつり展」は合致しているので、このような中で特色が出すことを希望します。

(事務局)

現在博物館のチラシは、教育普及などの目的から学校機関への配布が多いですが、今後企画展によっては、配布先を変えていきたいと考えています。また、来場者のアンケート結果によりますと、現在チラシやポスターを見て来館した人は少なく、テレビやホームページなどのインターネット検索によって来場する人が多かったという結果が出ています。現在博物館では、Twitterで各職員が登呂遺跡・博物館に関することを月20回程度発信しています。

(伊熊委員)

今の広報のあり方で言いますと、学生は大学のデジタルサイネージから情報を得ることが多いですので、ターゲットと広報媒体に加え、情報内容もターゲットにあわせ興味を持ってもらえるような工夫をしながら発信していったらどうでしょうか。

(事務局)

先ほど「祀りとまつり展」について言及いただきましたが、登呂まつり当日には、祭殿見学会として遺跡内の祭殿の内部の見学やその近くで貫頭衣の試着などの体験イベントを実施する予定です。従来の登呂まつりは、博物館前の広場で行っていますが、遺跡の中で弥生時代のまつりを再現し、住居域にも人が集まる場所を作りたいと考えています。また博物館内でも、常葉大学との連携事業として、登呂遺跡・登呂博物館に関連する紙芝居や双六などの子ども向けの事業の実施を計画しています。このような形で登呂まつりを一緒に盛り上げられればと考えています。

(堀切会長)

登呂まつりはどこで行われているのでしょうか。

(事務局)

登呂まつりは、博物館前の広場を中心に行われます。あと例年ですと地域の子ども会が町内の道路に山車を引いてこのまつりを盛り上げています。

(堀切会長)

これまで遺跡の祭殿のまわりでは特にやってはいなかった、今回は試験的にこれをやってみようということですね。

(事務局)

そうです。

(木山委員)

博物館の事業報告など聞いておられますと、結構な数のイベントを実施しており、各段階に応じた学習支援などライフステージに対応して取り組んでいると思います。毎年これだけのイベントを博物館側が企画しているのですかね、これを毎年実施していくうちに地域連携にも結びついていくものと思います。そこで思ったのが、ほかの委員からも意見が出ておりましたが、イベントがそれぞれ対象の参加者が望むものになっているのか、たとえば博物館ボランティアがもっと企画に参加するイベントなどボランティアの人たちの意見を積極的に取り入れていくことで、自分たちの博物館というような意識の醸成が得られるのではないかと思います。ほかにも大学生などの連携相手に、企画に大きく関わってもらうことで、思いもよらない方法でイベントができることも期待できるのではないだろうかと思いました。さらに、博物館は社会教育施設でもあるため、子どもと高齢者など違うライフステージの人が交流する場、世代間交流の場としてイベントを企画するのもいいのではないのでしょうか。そのような点でも、博物館ボランティアの積極的なイベントの企画・運営への参加は有効であると考えます。例えば登呂遺跡を知っている世代、知らない世代が交流することでギャップを知るのもいいのではないのでしょうか。

(事務局)

現在登呂博物館には、47名のボランティアが在籍しており、その多くの方が高齢の方であるが、一部大学生の加入もある状況ですので、確かに世代間交流の場としてはいい機会になるものと考えています。また、これから登呂まつりにむけたワークショップも計画しているなかで、大学生の意見も取り込んでいきたい

と考えおりますので、今のご意見も参考にさせていただきながら、世代間交流の促進もしていきたいと思えます。

(弓削委員)

以前の行財政改革審議会の中でも地域住民が登呂遺跡に愛着をもつための取り組みを掲げているので参考にすべきであると思えます。そこから地域住民に向けて何が課題で何を話したらいいのかということになると思えます。イベントをやっていることを知らない地域住民ということであるが、この年齢層がどういう層なのかかわからないと広報媒体の選択も難しいのではないのでしょうか。地域住民の誰とより関わりを持っていきたいのか、また以前は関りがあったがそれを取り戻したいということなのかなど整理されたほうがいいのかなと思えます。以前のシビックプライドの醸成の議論のなかでも、遺跡に親しみや愛着を持ってもらうことからシビックプライドへつなげていくことが大事であるという意見がありましたので、やはりこの遺跡に来てもらい親しんでもらうことで、楽しかったことなどを発信してもらうような仕組みづくりや、ここに来てもらったことが参画につながる仕組みづくりができるといいのではないかなと思えました。私も別の地域でまちづくりに関わっていますが、この遺跡もそうした発信をしてもらえる機会がたくさんあると思えます。

また、先ほども意見がありましたが、この遺跡の案内路については早めに設定したほうがよいのではないかなと思えました。例えば、博物館ボランティアと一緒に考えるなどの取り組みもいいのではないのでしょうか。

(野田委員)

全国には竪穴住居や高床倉庫などの復元された遺跡がたくさんあるなかで、登呂遺跡の「売り」を考えていかななくてはならないと思えます。一番初めに発見されたことは、もう売りにならない気がします。各種イベントをやっていますが登呂遺跡の性格を出しているものも多いので、このようななかで登呂遺跡を特徴づけるものを売りとして明確にしていくのがいいのではないのでしょうか。また広報でいうと、小学校には大量のチラシが送られてきますがあまり見られていません。どちらかというとな SNS などのインターネットを媒介としたもののほうが子どもには届きやすいです。

(伊熊委員)

ライフステージに合わせた教育のあり方で、夏に実施している「子ども学芸員養成講座」は、定員が10名ですぐに埋まっていますが、これはもったいないと思います。もっと需要があるのであれば、やり方を変えてもう少したくさん子どもたちに参加してもらって、たとえば登呂まつりのときに何か発表してもらうなど、いい事業だと思うので名称も含めてこの講座のあり方を少し検討してもらいたいです。

(堀切会長)

今年度ももう一回ありますので、それまでにご意見があれば用意してください。これで議事を終了させていただきます。事務局にお返しいたします。

(事務局)

皆様、非常に貴重なご意見ありがとうございました。いただいたご意見につきましては、これからの事業に繋ぎたいと考えております。それでは、これをもちまして令和4年度第1回登呂博物館協議会を閉会させていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございました。

【閉会】

署名欄

静岡市立登呂博物館協議会

会長

堀切 正人

委員

渋谷 かさね